

令和5年1月25日

# HIRATSUKA KYOUKAIHO

No.272

平塚協会報

発行所：公益社団法人 神奈川労務安全衛生協会 平塚支部  
発行責任者：森泉 武人



## 新年を迎えて

(公社)神奈川労務安全衛生協会  
平塚支部

支部長 大矢 能成

〈スタンレー電気(株) 秦野製作所〉



新年明けましておめでとうございます。

平素より当協会の運営、各種事業に対するご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。また、平塚労働基準監督署をはじめ、関係官庁、諸団体ならびに会員事業場の皆様のご協力により、令和4年度の事業計画を進めて来られましたことにつきまして、重ねて御礼申し上げます。

さて、昨今の私たちを取り巻く環境は、新型コロナウイルスの長期化、ロシアのウクライナ侵攻による原材料・エネルギー価格の高騰、急激な円安など企業や家計のマインドにマイナスの影響を与えるものが多く、厳しい状況が続いております。このような状況の中、昨年末はスポーツが

日本を盛り上げてくれました。サッカーワールドカップにて、日本がグループリーグで強豪国のドイツとスペインを破り1位で通過いたしました。決勝トーナメントでは前回準優勝のクロアチアにPK戦の末、惜しくも敗れましたが、代表選手が奮闘する姿に勇気と感動をもらった人たちも多いのではないのでしょうか。日本が世界で再び注目され、訪日外国人の増加、インバウンド消費の拡大などによる経済の押し上げを期待していきたいです。

また、労務安全衛生に目を向けますと、平塚労働基準監督署管内の労働災害発生件数は、11月末現在、死亡災害は昨年度より0件を継続しているものの、休業災害(4日以上)は628件と前年度同期比で151件と増加しております。新型コロナウイルス感染症によるカウントを除いたとしても増加傾向となりました。

引き続き、本年も会員事業場の皆様と一緒に安全で健康に働ける職場環境作りの推進に取り組み、労働災害・職業性疾病のゼロを目指して活動していきたいと考えておりますので、ご理解ご支援の程、何卒よろしく願いいたします。

最後になりますが、会員事業場の皆様のご発展とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 新年のごあいさつ

平塚労働基準監督署

署長 柴田 英彦

新年あけましておめでとうございます。  
今年(こそ)は、皆様にとって良い年でありますようお願いしております。今年こそとしたのは、ここ数年、新型コロナウイルスの影響により経済活動が停滞し、色々な活動が思うようにできない状況が続いてきましたが、ワクチンが安定的に供給され、治療薬の登場などもあって、感染防止対策に期待が持てるようになり、経済社会活動の正常化に向けた機運も徐々にではありますが感じられるようになってきたところであり、切に祈念していることに他ならないからです。

話は戻りまして、旧年中は公益社団法人神奈川県労働安全衛生協会平塚支部及び会員事業場の皆様方には労働条件の確保、労働災害の防止活動など労働基準行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。今年も引き続きよろしく願いいたします。

昨年を振り返りますと、1月にロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まり、7月には安倍元総理の不慮の死、参議院議員選挙で自民党が大勝しましたが、その後は原材料や燃料費等の高騰による物価上昇、様々な要因による円安が続くなど社会全般において激動の1年となりました。

労働基準行政の目下の課題は「賃金の引き上げ」と増加傾向にある「労働災害」の防止ではないかと思っております。

「賃金の引き上げ」については、最低賃金はもとより、岸田総理の総合経済対策に盛り込まれているように、急激な物価上昇に負けないリスクリングを通じた全世代の賃上げになります。現下の経済社会情勢、牽いてはデフレからの脱却、経済の好循環を下支えする重要な取り組みであり、会員事業場におかれましても、できる範囲内で賃金の引き上げをお願いします。また、賃金に関するものとしては、本年4月1日から、中小企業の月60時間超の時間外労働に対する割増賃金率

が50%になります。改めて周知方お願いしたいと思っております。

長時間労働や各種ハラスメントによる過労死等対策も重要であり、長時間労働抑制やハラスメント防止に向けた取り組みも引き続き実施していきます。適切な労働環境の整備は公平公正な社会活動において重要であることから「働き方改革」を通じて、就業環境の改善に努めたいと思っております。

次に「労働災害」の防止についてですが、ここ数年、神奈川県労働局管内でも全国同様に労働災害が増加しています。平塚署管内でも死傷災害は増加していますが、死亡災害については令和3年に続き、0件を維持しております。会員事業場の取り組みの成果だと思っております。また、日頃、労災保険給付の請求書の事務処理を行っている「転倒災害」や「腰痛災害」などの行動災害のほか、高齢労働者からの請求が多くなっていると実感しています。第13次労働災害防止計画にもありましたが、「転倒災害」防止、「腰痛災害」防止とともに高齢労働者の安全対策が肝ではないかと考えています。さらに今年は第14次労働災害防止計画の初年になり、このあたりの対策が重要事項になると思っております。労働災害減少のためには欠くことのできない重要な取り組みとだと思っておりますので、「転倒災害」防止、「腰痛災害」防止と併せて、積極的に「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」の周知を図っていきたく思います。

労働災害の減少に向けて、今後とも貴支部と協力しつつ、しっかりと進んでまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

最後になりましたが、神奈川県労働安全衛生協会平塚支部及び会員事業場にとって幸多き1年となりますよう心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

## 令和5年 年間標語

**危ないよ声を掛け合い 安全確認 つなぐ言葉で つながる明日**



## 安全衛生祈願

令和5年1月13日(金)、当協会の年頭恒例行事である安全衛生祈願が、秦野市の出雲大社相模分祠で行われました。

大矢支部長はじめ会員事業所から30名の方々、平塚労働基準監督署より柴田署長、林安全衛生課長、当協会本部古屋専務理事が参加されました。拝殿内では宮司様の祈願、巫女による舞、支部長、副支部長、部会長及び来賓の方々による玉串奉奠を執り行い、参加者全員で今年1年の安全、衛生及び新型コロナウイルスの感染早期終息を祈願しました。

安全衛生祈願後、今年は集合及びオンラインで経営首脳者セミナーが開催され、43名の方々が聴講されました。行政講演として柴田署長から、第14次労働災害防止計画案の概要等の話がありました。特別講演として東海大学医学部看護学科 三橋准教授から、先般のコロナ対応についてのアンケート結果概要と、地域資源を活用した地域・職域連携推進のお話がありました。

その後、例年であれば講演者を含めた皆様との懇談会が開かれるのですが、今年もまだ開催に至らなかったです。「来年は開催したいですね」・・・散会となりました。

富士フィルムワコーケミカル(株) 矢作 記



## 令和4年度 神奈川労務安全衛生大会 功労賞 表彰者

(敬称略)

No.	事業場名	氏名
1	高砂香料工業株式会社 平塚工場	押久保 重 政
2	日産車体株式会社	後 藤 勝 利
3	古河電気工業株式会社 平塚事業所	眞 壁 亜紀子
4	横浜ゴム株式会社 平塚製造所	宮 崎 洋 輔

※残念ながら、本年度も神奈川大会がオンデマンド方式による開催となったため、授賞式は行われず賞状・記念品は郵送となりました。



## Withコロナのウォーキングイベントは、小田原七福神巡りから

(株)KMCT 総務室 西崎 素子

新型コロナの第8波が懸念される11/19、(株)KMCTになって初のウォーキングイベントを開催しました。社員とご家族37名での小田原七福神巡りは、雲一つない秋晴れとなり、早くもご利益を頂戴したようです。コースは適度なアップダウンがあり、新たな発見や心地よい疲労感とで、マスク越しの会話も弾んでいました。

思い思いに願いを込めて参拝を終え、昼食は五穀市場さんのデザート付きKMCT特製弁当。誰ともなく自然に外側に向けて輪になり、感染対策を意識しながら静かに味わう自然な姿に、ニューノーマルの定着を感じました。

スポーツ庁によると、コロナ禍の健康二次被害として、①ウイルス感染への不安、②ストレス蓄積、③体重増加、生活習慣病の発症・悪化、④体力の低下、⑤腰痛・肩こり・疲労、⑥体調不良等をあげています。実際、9月に実施した健康診断では脂肪肝の割合が増加しており、感染対策の長期化による健康影響を受けていると実感します。

なかなか運動が必要な社員の参加につながらないのですが、ウォーキングが健康に良いという点に異論はありませんので、今後もウォーキングイベントを継続し、健康度の底上げと、スポーツ庁の目指す健康促進につなげていきたいと思っています。



七福神最初の潮音寺(毘沙門天)



# 雑感

## 『私の本業』

市光工業株式会社 岸本 友介

突然ですが、皆さんは「あなたの本業は何ですか？」と質問されたら、どう答えますか？私の周り(同じ会社の人や友人)の方は、「現在務めている会社での仕事の事」と答えます。私も数年前まで、同様の回答をしていました。この雑感でこの切り出し方をしたのは、今でも強烈に脳裏に焼き付いている出来事があり、そしてそれ以降、それをずっと大事にしている、最近それをさらに重要だと感じている為、この切り出し方で始めました。

私は大学を卒業し、今年で社会人(企業人)として、16年目となりました。私は大学を卒業するまで22年間、ある競技スポーツ一筋で打ち込んできました。その為、どうしてもその打ち込んできた競技スポーツをしていた自分(自分でいうのも変ですが、キラキラと輝いていた自分)と、社会人生活をおくる自分と比べてしまい、社会人1年目・2年目はモヤモヤした日々を送っていました。

そんな中、フィンランドの友人に私のモヤモヤしている心境を打ち明けた時、彼に言われたことが、「あなたの本業は何？」と質問されたのです。その時の私の回答が、当時の会社で務めていた仕事内容を本業と回答しました。そして、それを聞いた彼は、「あなたの本業は、あなたの人生じゃないの？」という

返答でした。この返答を聞いた時、モヤモヤしている自分も、キラキラ輝いている自分も、全て私自身であり、私の人生であると明確になり、であれば、キラキラ輝いていたいと強く感じたのです。

そして、この出来事をきっかけに、私は人事職をやりたいという気持ちが固まり、人事職として転職をし、現在の会社で人事職を務めております。人事職としては今年で14年目になるわけですが、お蔭さまで人事業務も非常に幅広く携わらせていただきました。と同時に14年間の中で、結婚をし、子供が生まれてと、ライフイベントも多くあり、充実した人生を送っています。

私のこのエピソードは他愛もないエピソードですが、近年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各企業の従業員の働き方が大きく変化し、中でも一番強く感じることは、各従業員が家族への想い・家族と仕事(会社)との考え方が非常に変化していると感じています。これは非常に良い事だと感じています。仕事一筋も決して悪いという事では無く、仕事も自身の人生を豊かにするものだと捉えて人生(本業)を送るという事が非常に重要だと感じます。こういった事を新入社員や若い従業員に伝えていく事もまた人事職の役目なのかなと思う今日この頃です。

### 神社仏閣めぐりから… 比々多(ひびた)神社

相模國六社のご紹介の第三弾として、今回は比々多神社をご紹介します。

この神社は相模國三之宮と位置付けられており、住所も“伊勢原市三ノ宮”です。神社の起

源は、縄文時代中期の環状配石(聖地信仰の証)が敷地近隣より発掘されたことなどから、約1万年前と推定されています。

神社としての御鎮座は「社伝記」によると紀元前655年と記されており約2700年前とされています。当時は現在の社殿の裏手から西方に伸びるなだらかな坂道を徒歩で約10分程登った所に建立されたと伝えられており、現在もこの地を「元宮」とし鳥居と石碑が祀られています。ここから相模湾を一望できて、遠くは三浦半島から江の島も確認出来るなど、大変風光明媚な場所でした。

比々多神社も他の相模國五社と同様に、古くは第十代崇神天皇や第三十六代孝徳天皇、第四十一代持統天皇等々より、いくつもの御神宝を賜ってきました。その中で毎年十一月に斎行される「酒祭」の時だけ出御される“うずらみか”は県の重要文化財に指定され、関東最古と言われる狛犬一対(七世紀時代の木彫り)は市の重要文化財に指定されています。

社殿敷地にはご神木の「相生(あいおい)の櫻」がありました。幹が途中から2つに分かれている珍しい櫻の木で、恋愛成就、夫婦円満などにご利益があるそうです。平塚からは車で約30分と少し離れてはいますが、社殿裏手の元宮からの景色を見ると、この地が太古の昔からの信仰の場であったことを感じました。是非天気の良い日を選んでご参拝される事をお勧めします。

株式会社KELK 西久保 記



## 編集後記

令和5年、新年明けましておめでとうございます。昨年の振り返りですが、やはりコロナに振り回された1年であり、また、色々なニュースがありました。その中でも、私は野球が好きなので、MLB・NPBの話題にふれたいと思います。一昨年、MLBアメリカンリーグでMVPを受賞した、エンゼルスの大谷選手はリーグ開始当初から大きな話題となりました。打者としての規定打席到達は勿論の事、投手としての規定投球回数もクリアし、ヤンキースのアーロン・ジャッジ選手とのMVP争いがメディアも巻き込み大論争となりました。結果として

はジャッジ選手がA・リーグ新記録の62本塁打を打った事でMVPを取りましたが、大谷選手も高評価でした。

その頃、NPBではヤクルトの村上選手が9月半ばには55号本塁打を放ち、日本記録の60本塁打を超えるかと大いに話題となりました。ジャイアンツファンである私も、この時はばかりは村上選手にエールを送りました。結果としてはその後スランプに陥ってしまいましたが、最終戦で打った日本人最多の56号、そして、三冠王獲得となりました。来年、新たな気持ちで61本に挑戦してもらえると期待しています。

最後になりますが、令和5年こそは労安協平塚支部関係者一丸となって、災害の芽を摘み取る安全活動を展開し無災害を目指していきましょう。  
(株)KMCT 小山 記